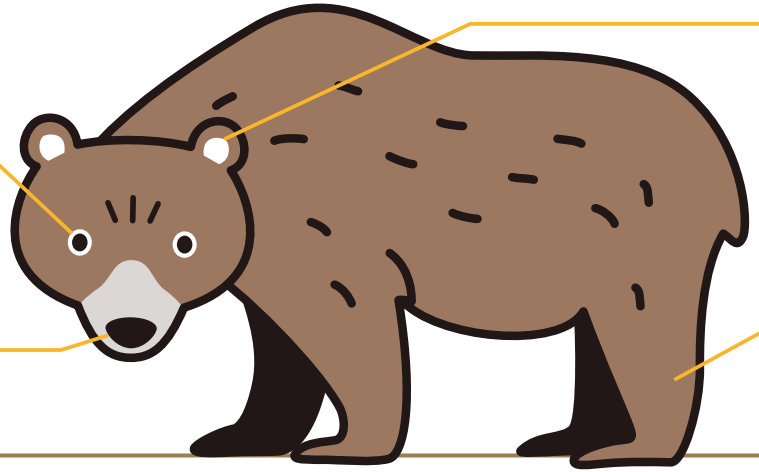
Q A ヒグマってどんな動物?

ヒグマは北海道の豊かな自然を代表する大切な存在です。

ヒグマは、日本では北海道にだけ生息する国内最大の陸上の哺乳類です。
ヒグマの多くは、注意深く行動していて、人を避けて森で生活していますが、
一度、生ゴミやくだものなど人の食べ物の味を覚えてしまうと忘れることがなく、
それを目当てに人の生活する場所に出てきたり、人を恐れなくなったりと行動を変化させる場合があります。

- 昼でも夜でも行動できる視力を持ちますが、遠くのものはよく見えないようです。
- とても鼻が良く、埋めた残飯などもすぐに見つけ出します。
- とても耳が良く、よく音を聞いています。
- 動作は非常にすばやく、時速50キロほどで走ることができます。



♂ オス
体長…約2.0m
体重…約150～400kg

♀ メス
体長…約1.5m
体重…約100～200kg

Q ヒグマは なにを食べているの？

A 季節によって、いろいろなものを食べます。

春は、植物を主に食べ、夏になると、アリやザリガニなどの動物も食べるようになります。
秋には、ドングリなどの木の実やヤマブドウなどの果実をたくさん食べて冬に備えます。
食べ物が少なくなる8月～9月は、ヒグマによる農作物の被害が起きやすい時期です。

春（はる）

主に植物を食べます

フキやセリ科（エゾニュウ、アマニュウなど）、ザセンソウ、ミズバショウ、イラクサ等

夏（なつ）

フキなどの植物のほか、アリやザリガニなども食べます

※ヒグマによる農作物の被害が起きやすい

秋（あき）

木の実（ドングリ、クルミなど）や果実（ヤマブドウ、コクワなど）、地域によってサケなどをたくさん食べます

冬（ふゆ）

冬眠中（何も食べません）

Q 人とヒグマの“あつれき”とは？

A ヒグマによる問題（あつれき）が大きくなっています。

ここ30年ほどでヒグマの生息数は増え、人が生活する場所にまで出てくることが多くなっています。
また、毎年のようにヒグマによる人身事故が起きており、
畑の作物がヒグマに荒らされる被害も大きくなっています。
こうした問題を、人とヒグマとの“あつれき”と呼びます。

ヒグマの推定生息数の変化

平成3（1991）年	5,500頭
2.1倍	
令和5（2023）年	11,600頭

Q 北海道はどんなヒグマ対策をしていますか？

A 人とヒグマとの“あつれき”を減らしていくため、北海道では「北海道ヒグマ管理計画」を作り、次のような取組を進めています。

最近、人が生活する場所にまでヒグマが出てくるようになっています。ヒグマの暮らす場所と人が生活する場所をはっきりと分けて、ヒグマが出てこないような取組を行います。

ヒグマとの“あつれき”があまり見られなかったころ（15年～30年ほど前）の生息数まで減らす取組を進めていきます。

ヒグマの生息数や被害などの多くのデータを集め、得られたデータを毎年の対策に活かしていきます。

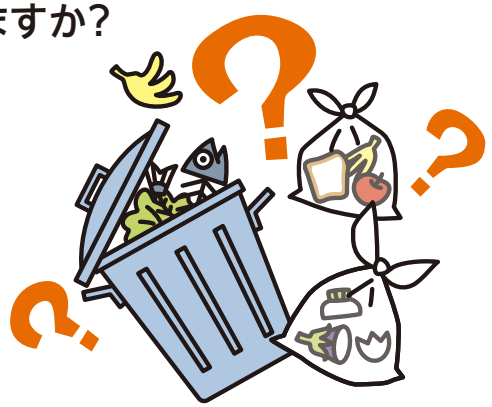
ヒグマの管理のためには、専門家やハンターの存在が欠かせません。そうした人たちを増やしていきます。

ヒグマの被害を防ぐためには、一人ひとりがヒグマに対する正しい知識を持つことが大切です。北海道では、ヒグマに出会わないための基本的なルールをみなさんに守っていただくことを伝えていきます。

みなさんに聞きたいこと

Q1

野山でヒグマに会わないようにするためには、どのようなことが大切だと思いますか?

Q2

学校や家の周りにヒグマを近づかせないようにするためには、生ゴミなどヒグマのエサになるものを放置しないことなどが大切ですが、どうすればみんなに気をつけてもらえると思いますか?